

ALTとの効果的な連携・協働

単元名 「Welcome to Japan.」(NEW HORIZON Elementary English Course 5) **関連する領域** 話すこと[発表]

単元のゴール 市内のALTの先生方に日本の文化を知ってもらうために、日本の四季や行事を紹介しよう

市内の複数のALTが来校し英語を通じて子供とコミュニケーションを深める「スペシャル・イングリッシュ・タイム」を単元末に設定し、ALTに日本の行事を英語で伝えることを目標に学習を積み重ねた上で、実際に一人ずつ発表を行い、その後の英語でのやり取りも楽しんで行った。

単元全体の中でも、自校担当のALTと授業内で英語によるやり取りをたくさん行いながら、発表に向けて繰り返し言語活動を行った。**単元を通してALTをコミュニケーションの「相手」とし、身に付けさせたい表現や学習内容について児童が実際に英語を使いながら学ぶ過程を重視している。**

指導者の思い

- ・ネイティブ・スピーカーがいることを最大限生かしたい
- ・児童にたくさん英語に触れさせ、実際に英語を使った自然なコミュニケーションの中で学ばせたい
- ・試行錯誤をしながら「伝わる喜び」を感じてほしい

JTE(日本人英語担当教員)の主な役割

☑ 児童やALTの興味・関心等に応じた、単元で中心となる学習課題の設定・単元構成

☑ 授業全体のコーディネート、必要に応じた指導

ALTとのやり取りの場を確保しながら

児童から気付きを引き出す、言えないこと代弁する

ALTへの適切な指示、役割分担

必然性のあるコミュニケーションの場

常にALTを巻き込みながら

単元の目標達成のために

ALT(外国語指導助手)の主な役割

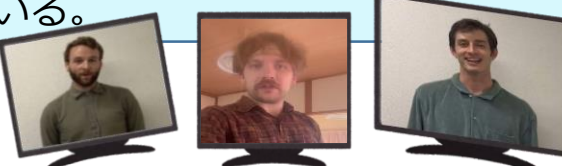
☑ コミュニケーションの「相手」

☑ 児童へのインプットやフィードバック

☑ JTEのサポート、教材・教具作成協力

ネイティブ・スピーカーとして

ALTの背景も生かしながら児童の実態に応じて



単元冒頭に、「日本の文化や行事などを知りたいので教えてほしい」というALTからのビデオメッセージを視聴。単元終了時のゴールイメージとともに「誰に」「何のために」という相手意識・目的意識をもたせる工夫を行った。

【児童の感想】

- 最初はドキドキしてちゃんと話せるか心配だったけど、話してみたら楽しくなってきた、上手に話せた。最後はALTの先生が褒めてくれたので嬉しかったです。
- ALTの先生たちは日本に来たばかりなので、写真を見せたり、発表の中で問いかけたり、感想を付け加えたりして、行事のことがよく伝わるように工夫しました。うなずきながら楽しそうに聞いてくれて、日本の文化が伝わったと思うのでよかったです。紹介した行事を体験してほしいです。
- ALTの先生たちの国の行事を聞いたり、質問をしたりして、外国のことやALTの先生のことをよく知ることができて、楽しかったです。また会って話をしたいです。



単元末の実際に発表する日の様子

令和5年度
八代市立太田郷小学校